

## 資料 7 共同体の祈りのモデル

共同体の祈りは、今後いろいろな機会に信徒のリードによって行われていくものと考えられます。以下のものはあくまでもモデルですから、その時その場に合わせた形や、内容が考えられます。また今まで行われてきた会合の前に、しばし祈りの時間をとることなどをして、これからのスタートとすることもできます。また次第にその祈りの会の独自さを出したり、振り返りの時を用意して、今後どうするのかを話し合う機会をつくることも必要です。自由な発想で、共同体の祈りをお作り下さい。(例えば他宗教の祈りの形をカトリックに合わせた形で使う)

* どんなどきに祈るか	共同体が共同体として祈る必要のある時、親しい人が病気の時、亡くなった時、困難や不幸(けが、仕事の失敗、物が無くなった時)があった時、喜ばしい時、(大切なことへの執念、仕事の成功、業績が上がった時など)、慰めたい時、物事が始まる時、終わる時、社会の動きに対して喜ばしい時、悲しい時等々、共同体として一つの出来事を確認しようとする。
* 回数	定期的なものであればプログラム化していく。突然のものならその場の設定、適当な雰囲気作りなどを考える。
* 役割分担	いろいろな人々が作り上げる祈りを意識し、役割を分担します。例えば、司会者、朗読者、祈りの先唱者、シンボル行為執行者、聖歌のリーダーなど、みんなの奉仕者として場の雰囲気作りなども配慮する。
* 場の設定	集まる理由にふさわしい場所と携帯、雰囲気作りをする。例えば、囲む形、一人に向かう形、広場で、出来事が起こった場で、など。
* 準備	奉仕者の心の準備。状況把握の準備。場の準備。雰囲気作りの準備など。形にとらわれず、心を言えることが出来る工夫の準備。惰性に流されないための準備。
* 従来の祈りの場を工夫する	十字架の道行やロザリオの祈りなど今まで行われてきた祈りのシンボリックな行為(十字架をもつての移動、ロザリオの黙想の形)を考えることによって、より充実した祈りになると思います。例えば、十字架の道行で各留ごとに移動しない、言葉でなく黙想で十字架の道行をする。ロザリオの祈りで映像を使う、黙想のシンボル(御絵を書とする)を変える。テゼの祈りを数えるためにロザリオを使うなど。
* 共同体の活動の基礎となる祈りの集いを設ける	各種の委員会や評議会のはじめに祈りの集いをする、青少年の活動の前に、など共同体で祈る機会を広げることができます。

【モデル(例)】

はじめ	はじめの聖歌	集まった理由に合わせた聖歌を選ぶ。一緒に祈る雰囲気を作る。
	導入の言葉	例:「父と子と聖霊の御名によって、アーメン」
	招きの言葉	なぜここに私たちが集まったのか。 私たちはどのような気持ちでいっぱいなのか 神にわたしたちは、どのような支えを求めようとしているのか 共同体がこれからどのように歩んでいきたいのか などを、司会者は皆に呼びかける
	招きの祈り	集まったものの心を神に向ける祈りを行う。 例:「いつも私たちと共におられる神よ、あなたは〇〇(弟子たちが弱い)時に、 〇〇(不思議な力)を持って人を支えてくださいました。今〇〇(友人の病気)のため にここに集う私たちの上に光を与えて下さい。特に〇〇(友人の家族)の上に 豊かな眼差しを示してください。主イエス・キリストによって、アーメン。
神のことば	聖書朗読	現在の状況に似た過去の出来事に神がどのような道を示したかを、聖書を朗 読することによって集まったものが確認できるようにする。そのための聖書の箇 所を朗読する。
	みことばに応え イエスとの出会 いを深める時	沈黙によって、音楽によって、映像によって、語りによって、祈りによって、書物 によって、共同祈願によって、分かち合いによってなど聖書を深く味わい、お互 いに深め合う機会を取る。心に残った聖書の言葉を繰り返す。
シンボルによる祈り		聖水、意味ある物を手渡す、祈り、決意の表明、慰めの言葉、十字を記す、手 を合わせて黙祷する。光を使う、歌うなど、集まってきた出来事を、聖書によっ て理解し、心にとどめ、お互いの一致の中で、共通の理解を表すシンボルを用 いることによって神の現存と出会えるように配慮する。
終わり	結びの祈り	集まってきた一人ひとりに、集まったことによって大切なことが確認され、神の支 えのもとに生きることができるよう祈る。 例:「いつくしみ深い神よ、〇〇(友人の人生の岐路を心配する)のためにここに 集う私たちが、いつも〇〇(導かれて)されてきたあなたの支えの中で、〇〇(人生 の選択)を大切に生きていくことが出来ますように、私たちの主イエス・キリストに よってアーメン。
	神の祝福の祈り	例:「父と子と聖霊の祝福が、私たちの飢えにありますように、アーメン。」
	聖歌	集まってきた意味が、神の支えの内に一人ひとりの生活の中に続くように聖歌 を選ぶ

\*以上のモデルを省略したり拡大したりして自分たちに合わせる。

モデルの2(神のことば)と3(シンボルによる祈り)を組み合わせたものにする。3を拡大する(例えば食事)などして、モデルをこなして自分たちの集いに合わせた祈り方を作ることが重要です。